

JELA NEWS

ジェラニュース 第54号 2021年4月15日発行 発行責任者 渡辺 薫

一般社団法人日本福音ルーテル社団 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26 Tel.03-3447-1521 Fax.03-3447-1523 jela@jela.or.jp www.jela.or.jp

難民支援／世界の子ども支援／ボランティア派遣／リラ・プレカリア(祈りのたて琴)／奨学金制度／宣教師支援

私たちは、キリストの愛をもって、日本と世界の助けを必要とする人びとに仕えます

お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。(マタイによる福音書25章35～36、40節)



公益財団法人をめざすJELA

この号にはこんな記事が……

【P2】「ディアコニア」に込められた神の愛～JELA奨学金事業の20年と新たな展望～【P3】難民支援事業奨学金 奨学生公募開始のお知らせ／ルポ「定住のため日本語を学ぶA氏」【P4～5】難民支援特集：「彼ら彼女らの人生に関わることができて良かった」JELAハウス管理人 竹内 悠／ルポ「コロナに翻弄された難民女性 家族のもとで天に召される」／JELAウェビナーのお知らせ【P6】「公益財団法人をめざすJELA」理事長 古屋 四朗／緊急災害支援：「野宿を余儀なくされる方に『今日の糧』を」ちかちゅう給食活動代表 久保 彩奈【P7】年末年始チャリティコンサートご報告と聞きどころ【P8】2020年寄付金額・実施事業報告／編集後記

「ディアコニア」に込められた神の愛 ～JELA奨学金事業の20年と新たな展望～

JELAの奨学金事業は今年、20周年を迎えました。今回は、JELA奨学金事業の歴史と「JELAディアコニア奨学金」という新しいニックネームについてご紹介します。

JELA奨学金事業の創設当初の名称は「国際青年交流奨学金」。ブラジル人神学生が母国で学ぶための支援、日本から海外の教会へ研修に赴く青年の支援、日本の有機農業を学び母国に還元する目的で来日した留学生の支援など、その名に恥じない、国際色豊かであり、人的・文化的交流を支援する働きとなってきました。

設立から6年目の2006年、来日難民の方やリラ・プレカリア研修講座受講生への支援が始まると、奨学金支給の舞台は日本国内に移り、日本人学生が国内外で社会福祉を学ぶ機会等も提供するようになりました。2011年の東日本大震災の時には、被災学生の支援にもこの奨学金が用いられました。事業設立からの20年間でJELAが支援した人は112名になります。特に、栃木県那須塩原市の農業専門学校「アジア学院（ARI）」で学んだ発展途上国の留学生たちは、JELAの奨学金を「神からの贈り物」ととらえ、その多くが帰国後に母国の農村でリーダー的役割を担いながら牧会活動をするなど、JELAの奨学金の価値を高めてくれていることが追跡調査で分かっています。

このような事業の歴史を踏まえ、20周年を迎えるにあたり、昨年JELAの奨学金委員会が事業の再吟味を行いま

した。その中で、奨学金支援が経済支援であるだけでなく、キリスト者としての成長を目指し学ぶ人々、国際貢献を志し学ぶ人々、社会福祉のために学ぶ人々を支援するものとなるように規程を改定しました。また、この奨学金を多くの方々に知っていただけるように、愛称をつけることにしました。その名称が「ディアコニア奨学金」です。「ディアコニア（διακονία）」はギリシア語で「務め・奉仕」を意味する言葉で、関連語も含めるとなんと90回も新約聖書に登場します。キリスト教会の文化では、互いに仕えあうこと、利他的に務めを果たすことなどを指し、転じて慈恵的な行いも意味するようになりました。

いま、JELAという法人が110年余り前に米国からの青年宣教師たちによって設立された歴史と、彼らが日本の人々や社会に伝えた福音とキリスト教に根差した社会福祉のわざに思いを馳せています。「JELAディアコニア奨学金」には、この事業を可能にしてくださった神の愛と、かつて私たちに仕え育ててくれた人々がいたように、私たちも次世代の人々が他者に仕える機会を提供するものになりたいという願いが込められています。

今年は6月に募集が開始します。JELAのウェブサイトやブログ、SNSなどで詳細をご確認下さい。また、JELAが支援を必要とする方々に対して繋がるようにお祈りください。JELAディアコニア奨学金をご支援くださる方も引き続き募集しています。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。



2015年にアジア学院で研修したメアリーさん（右）



イギリスのダンスセラピー修士課程で学んだ小川昂子さん（左から2番目）

JELAディアコニア奨学金 2022年度募集要項

①奨学金の概要

給付年額：最高120万円

給付期間：最長4年間

給付方法：原則として、学費等の一部又は全部を、学期ごとに大学等に直接支払う。

②奨学生の資格

次の各項のいずれかに該当し、かつ就学・研修に要する費用の支払い能力が不十分である者。

- (1) キリスト者としての成長を目的とし、国内外の研修・大学・専門学校（以下「大学等」という。）において学ぶ者。
- (2) 社会と人々に仕えることを目的とし、大学等において学ぶ者。
- (3) 国際社会への貢献を目的とし、大学等において学ぶ者。

③募集スケジュール（予定）

応募書類受付期間：

2021年6月1日～10月31日

※消印有効、推薦入試の場合は応相談

書類審査・面接：

2021年11月上・中旬

※面接は書類審査通過者のみ

採否通知：

2021年11月下旬

④募集人数

2～3人程度

応募に必要な書類などその他の詳細については、後日ウェブサイトで公開し、ブログやSNS等で告知します。

お問い合わせ先：jela@jela.or.jp



JELA 難民支援事業奨学金 奨学生公募開始のお知らせ

JELAはこれまで、奨学金事業を通じて、難民や難民認定申請中の方々の学びを支援してきました。本年からは難民の教育支援に一層力を入れるべく、従来の奨学金事業から切り離して「難民支援事業奨学金」として独立させました。これにより、給付型（返済不要）・年額最高120万円・最長4年間といった条件はそのままに、定員数を2～3名に増員し、より多くの難民

や難民申請中の方々にご利用いただくことが可能になりました。

難民の方々、難民支援に関わる団体の方々、教育関係者の方々などに広くJELAの難民支援奨学金を知っていただき活用していただければ幸いです。以下に2022年度の募集要項を掲載します。またJELAホームページにはより詳しい募集要項を掲載しますので併せてご参照ください。

JELA難民支援事業奨学金 2022年度 募集要項

①奨学金の概要

給付年額：最高120万円

給付期間：最長4年間

給付方法：原則として、学費等の一部または全部を、学期ごとに大学等に直接支払う。

②奨学生の資格

次の各項のいずれかに該当し、かつ就学・研修に要する費用の支払い能力が不十分である者。

- (1) 日本政府、外国政府もしくは日本国外のUNHCRにより難民として認定された者、または出願時に有効な“UNHCR難民該当性に関するガイドライン（UNHCR Eligibility Guideline）”などに基づき国際保護の必要が認められている者で、かつ日本政府から中・長期の在留資格を付与されている者、またはそのような在留資格を付与される現実的な見通しがある者。
- (2) 難民の家族（難民認定された方の子など）
- (3) 難民認定申請中の者（中長期の在留資格のある者）

③募集スケジュール（予定）

応募書類提出締切：

2021年10月31日（日）

※消印有効、推薦入試の場合は応相談

書類審査・面接：

2021年12月上旬

※面接は書類審査通過者のみ

採否通知：

2021年12月中旬

④募集人数

2～3名程度

⑤応募方法

所定の「奨学金受給申請書」（JELAウェブサイトからダウンロード可能）に必要事項を記入し、次の（1）～（5）の書類一式とともにJELA事務局に提出してください。

- (1) 難民の身分を証明する公的な書類（難民認定申請者の場合は、在留カード及び難民認定申請受理票）
- (2) 高校の成績・卒業証明書（卒業見込みも可）
- (3) 家計が困難な経済的状況であることを説明する書類（確定申告など）
- (4) 推薦状（最低1通）
- (5) その他（何かPRしたいことや書類などあれば任意）

⑥応募書類送付先

〒150-0013

東京都渋谷区恵比寿 1-20-26

日本福音ルーテル社団 難民奨学金係

詳細については、JELAのウェブサイトをご覧ください。

<https://www.jela.or.jp/>

お問い合わせ先：refugees@jela.or.jp

（JELA難民支援専用アドレス）

JELA 難民支援事業奨学金で学ぶ Aさんをご紹介します！

定住のため日本語を学ぶA氏 将来の夢に向かって

「漢字を覚えるのが難しいね。でも毎日勉強を頑張っているよ」と語るのは、日本語学校に通うA氏（50代・男性）です。2020年9月までA氏は江戸川JELAハウスで生活していました。セーフティネットに繋がったことで区内のアパートに転居して約半年が経過しました。A氏は黒海に面する国で生まれましたが、旧ソ連の崩壊や紛争に巻き込まれ無国籍となりました。ヨーロッパの国々を転々とした後、2010年に日本にやって来ました。難民認定申請の裁判によって晴れて無国籍の認定を受けたのが、約10年後の2020年1月末のことです。

JELAでは日本語のボランティアの方々と共に、A氏をサポートしてきましたが、日本で生活していくために本格的に日本語を学んだ方が良いという判断から、現在は日本語学校での学習をサポートしています。

A氏は江戸川区内の日本語学校に10月に入学して、日本語を基礎から学んでいます。当初は久しぶりの学生生活に戸惑うこともあったようですが、現在は友だちもできて切磋琢磨しています。「（クラスメートの）中国人はずるいよ。漢字をもともと知っているんだから！」と冗談交じりに話してくれるA氏には、夢があります。A氏は日本でゆくゆくは自分の店を持ちたい、パン屋を開きたい、旅行ガイドがしたい、などの夢を持っています。

「この歳で学生になるとは思わなかったよ。JELAのおかげで日本語が勉強できて感謝している。今までは希望は持てなかったが、目標に向かって頑張ることで夢が叶うかもしれない。こう思えることは大きいね」と語るA氏の日本での挑戦は始まったばかりです。

JELAでは難民の方のための奨学金制度があります。一人でも多くの難民の方にこの制度を知っていただき、日本での学びや夢を実現するための手助けになれば幸いです。

JELAハウス 管理人の声

2019年秋からJELAの難民シェルターのひとつ「江戸川JELAハウス」の管理人を務める竹内悠さんに、管理人としての仕事や印象的な経験についてご寄稿いただきました。

彼ら・彼女らの人生に関わることができて良かった



竹内 悠
(江戸川JELAハウス管理人)

JELAハウス管理人を務めさせていただき2年目となりました。貴重な経験なので一部を共有できる機会をいただき光栄です。

管理人としての業務は、備品管理、入退去時の案内（家具、家電の使い方等）、災害時の対応等多岐に渡ります。私自身もJELAハウスに住み、住民と共に生活しながら、皆の健康、生活状態等を逐次JELAのスタッフにお伝えすることも業務です。いわば、住民とJELAスタッフとの橋渡し役です。

居住者のバックグラウンドも幅広いですが、主に中東やアフリカ出身の方が多く、在留資格や就学・就業状態により、生活スタイルもそれぞれです。一般的に日本人が「難民」と聞くと、「自国で迫害され、環境に恵まれなかった、弱く内気な方々」をイメージされると思いますが、そのイメージには当てはまらない方もいます。自国の政治体制等に反対し、良い変化を起こすため運動を起こし、集団を率いていたような人もいて、実際に接してみるとリーダー気質の方々もいます。自分の中で固まっていたイメージにより、難民の方々を一括りにせず、多種多様な方が祖国から遠く離れた地での生活を強られるケースもあるという事は私にとっても大きな発見でした。

難民の皆さんと共に生活する中で私が好きなのは、入居と退去の瞬間です。これまで屋根がないところで生活していた人が衣食住ができる環境を手に入れ、安心して休息してるのは私も嬉しそうです。退去の際も、これ

までの状況（仮放免で就労等の制限があった状況等）に何らかの決着がつき、新しいスタートを切る瞬間です。やはり何らかの目標を持って次のステージに進む姿は清々しいものです。

ある難民の方から、「ここに来る前は生きる目標を失っていたが、ここにいる間に安心して出産できて（注・JELAハウスの風呂場で出産したわけではなく、ちゃんとした病院で出産しました）、子どもを守る新しい使命ができ、前向きに生きていこうと思う」と言われたことがありました。

勿論このこと自体が嬉しいことですが、私に心を開いてこのように言ってくれたことが何より嬉しかったです。

難民申請が認められて日本の別の場所で自立した生活をスタートされた方、第三国に新しいチャンス求めて出国された方、母国の家族の元に帰国された方、それぞれから新天地で元気に生活している様子の便りが届くと、彼ら彼女らの人生に関わることができて良かったと感じます。

難民支援事業ウェビナー 開催のお知らせ

毎年6月20日は国連の定める「世界難民の日」です。JELAではこの日を迎えるにあたり、難民に関するウェビナー（オンラインセミナー）を開催します。参加は無料です。日本の難民受け入れの歴史や、JELAの難民支援事業にご興味のある方はぜひご参加ください。

開催概要

【日時】2021年6月9日（水）
19:00～20:45

【配信方法】Zoom（申込必須）
※お申し込みはJELAウェブサイト
または右のQRコードから

【当日のプログラム】

19:00～19:10 ご挨拶とJELAの難民支援のご案内
19:10～20:30 講演「日本の難民受け入れ
～これまでの歩みと今できること」

20:30～20:45 質疑応答

【お問い合わせ先】refugees@jela.or.jp（難民支援事業専用）



江戸川JELAハウス

コロナに翻弄された女性 家族のもとで天に召される

母国で家族と最期の時間を過ごすために帰国を決断し、その準備のためにJELAハウスに入居した難民申請者の女性が、コロナ禍の制約に悩まされながらも帰国を果たしました。

昨年12月まで難民認定申請者として江戸川JELAハウスで生活していたクリスチャンの女性（Tさん）が、2021年2月に祖国で最愛の娘や家族に見守られて天に召されました。

1970年代にカメルーンに生まれたTさんは、内戦を経て出国を決意し、2013年に来日しました。Tさんは来日後に白血病を発症。一時は帰国も考えていましたが、母国での内戦の激化、また、必要な治療が受けられないこともあり、日本に留まっていました。

2019年、Tさんは白血病とその治療に起因する免疫力低下により、肺炎、敗血症ショックを立て続けに引き起こしてしまいます。都内の病院に緊急入院したTさんは、医師から余命宣告をされました。その時に、Tさんは「家族のもとで最期を迎えたい。帰国したい」と決意します。Tさんは体調の悪化により働くことができず、友人らの支えを受けて生活していましたが、家賃の未払いが続き、住む場所を失う危機に直面しました。大家さんの理解もあり、数か月間はアパートに住み続けることができましたが、いよいよ退去を迫られる事態に陥ります。

Tさんは、難民への医療相談や援助を行なっている日本国際社会事業団（ISSJ）を頼りました。ISSJはJELAと難民支援で協力関係にある団体です。2020年1月下旬にISSJからJELAにTさんの件について相談がありました。ちょうど中国で新型コロナウイルスが流行しているというニュースが流れ始めた頃です。家賃が払えない難民認定申請中の方がいて、重い白血病を患っているが、渡航手続きが完了すれば3月末か遅くても4月には帰国できるので、それまでJELAハウスに滞在できないか、という相談でした。コロナ禍

ではありましたが、JELAはTさんをJELAハウスに迎えることとし、2020年2月13日からTさんのJELAハウスでの生活が始まりました。

3月、新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るい始めます。Tさんの4月までの帰国の準備が思うように進んでいないとISSJから連絡がありました。JELAでは遅くとも5月か6月にはTさんが帰国できると考えていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大状況はどんどん悪化して行きました。4月7日、政府は東京都などに緊急事態宣言を発令しました。緊急事態宣言は5月25日に解除されるまで続きましたが、その後も海外への渡航は難しい状況が続き、Tさんの希望する帰国は実現できないまま時だけが過ぎていきました。先が見えないことで、Tさんは心身ともに疲弊していました。8月には自力でトイレにも行けない状態となり、JELAハウスの管理人が食事や排泄の介護をするような状態になってしまいました。ついに寝たきりとなっていたTさんは、体調不良を訴えて8月末に救急車で病院に運ばれ入院となりました。

コロナ禍で希望が見えないTさんでしたが、帰国して家族に会いたいという目標のために新しい治療を試すなどした結果、3か月半の入院生活を経て、飛行機に乗れるまでに体調が回復しました。しかしTさんの体調がアップダウンを繰り返す中で、帰国できるタイミングを見極めることは難しいことでした。また、カメルーン入国にはPCR検査による陰性証明と黄熱病ワクチン接種の証明書（イエローカード）の提示が義務付けられていることも厳しい条件でした。JELAの中では、「本当に帰国できるだろうか？」と不安に思う気持ちと、「主の御心で



あれば必ず帰国できる」という思いが交差していました。

Tさんを取り巻く状況の進展が熟望される中、Tさん本人、医師、家族との話し合いを重ねたISSJは渡航費のサポートに踏み切り、Tさんの体調面、帰国便の手配などのすべての条件が整い始めました。

Tさんの帰国プランは、タクシーで病院からJELAハウスを経由して成田空港まで行き、飛行機に乗るというものでした。12月18日、Tさんの体調は良好、医師からも帰国の許可が出たため、家族の待つ母国を目指して日本を後にしました。数日後に無事に着いたとJELAに連絡がありました。さらにその数日後には、Tさんから家族のケアで順調に生活できているという続報もあり、安堵するとともに、家族と共に平安のうちに余命を過ぎて欲しいと祈りました。

2021年2月8日、Tさんの家族から連絡がありました。Tさんは愛娘の腕に抱かれ、家族みんなに見守られながら息を引き取ったそうです。帰国からわずか2か月足らず、短すぎる時間ではありましたが、最期は楽しい時を過ごすことができたということでした。悲しい報せではありましたが、Tさんが人生の最後の時間を家族に囲まれて喜びのうちに過ごすことができたことは、コロナ禍による厳しい状況で支援に関わったすべての人にせめてもの慰めとなったのではないかと思います。

公益財団法人をめざすJELA

理事長 古屋 四朗



JELA（日本福音ルーテル社団）は、一般社団法人から公益財団法人に転換すべく舵を切ることに致しました。ここでは、そもそもJELAとはどういう団体なのか、なぜ公益財団法人をめざすのかをご説明します。

◆これまでの流れ

JELAの始まりは、1909年（明治42年）に社団法人の認可を受けた「在日本アメリカ南部福音ルーテル教会ユナイテッド・シノッド宣教師社団」です。それまで信徒の名義で登記していた教会の財産を管理するために法人を作ったと聞いています。戦前のルーテル教会は、宣教師を中心に発展し、教会だけでなく、学校や社会福祉施設も作り、大部分が宣教師社団（つまり、今のJELA）の中にありました。しかし、軍国主義の台頭と日米関係の悪化により、1941年には、教会は日本基督教団に合同させられ、学校なども別法人になり、また法人名も日本福音ルーテル社団に変更を命じられました。

戦争が終わると、アメリカのルーテル教会は多くの献金によって日本宣教を再開し、膨大な資金がJELAを通じて日本の教会と社会に投入されました。しかし、それが一段落すると、JELAは宣教師会と表裏一体の資産管理法人として、日本の信徒たちにはほとんど

知られない存在になりました。

1990年代になると、これからのJELAをどうするか、内部で真剣な協議が続けられました。最終的に、キリスト教を前面に出した社団法人を神様の賜物と受け止め、「社会のさまざまな要請に応える公益事業団体になる」ことを決断しました。実はその少し前から、政府の助成金を受けて国際難民の保護に取り組んでいました。このように、宗教法人にはできない働きのあるので、ルーテル教会に精神基盤を置きつつも、多様な公益活動の開拓に踏み出したのです。ただし、公益事業とは言えない宣教師業務が事業費のかなりの比重を占めていたために一般社団法人を選択していましたが、今はそれも整理できました。

◆公益事業のための法人をめざす

そこでJELAは、いよいよ公益法人をめざすことにしたのです。それは、日本福音ルーテル教会の内部の組織から脱皮して、「私たちは、キリストの愛をもって、日本と世界の助けを必要とする人々に仕えます」というミッションステートメントどおりの団体として、公益事業をどんどん拡大するためです。キリストの愛をもって人々に仕える活動を拡大するには、社会的に公益団体として認められるかたちを取ることが必要です。

公益法人になることで、私たち自身が公益団体の自覚を持ち、社会の人々に信用され、寄付金への税制特典でお返ししながら後援者を増やし、団体自身も資金調達に伴う税

金を極力公益事業に振り向けることができるのです。

◆運営の安定のために財団法人をめざす

さてJELAは、公益法人に変わると同時に、社団法人から財団法人に転換する方針です。

社団法人は、人の集まりを法人にしたもので、社員の会費で運営します。

財団法人は、財産の集まりを法人にしたもので、財産を運用した果実で運営します。

JELAは、宣教師を社員とする社団法人でスタートしました。しかし、今のJELAの活動原資の大半は会費ではなく、かつての宣教師館などの土地を処分した財産から生み出した資金です。

ですから現状のJELAには財団法人のほうがふさわしいので、一般社団法人から公益財団法人に、これから約1年かけて移行するという方針を立てました。

財団法人は、評議員会と理事会で運営します。評議員も理事も、公益法人なのでルーテル教会員に限定はしませんが、百年以上前の宣教師の方々のスピリットを受け継いで、未来に向けて発展させてくださる方々を選んでいきます。社団法人に比べて、ずっと安定した運営ができると思います。

財団法人になりましたら、後援会を組織して、たくさんの方々に参画していただく計画です。会費で支え、ボランティアで支え、各種イベントへの参加で支えてくださる方々をお待ちしています。

はありますが「明日を生きるための今日の糧」を届けています。

しかし2020年4月の緊急事態宣言により渋谷の炊き出しが激減したことを受け、4月から6月末まで週2回の緊急対応を行いました。現在は感染防止対策を講じつつ月4回、活動しています。コロナ禍にあり、多くの方が制約ある生活を強いられていますが、その苛立ちは最も低く、貧しくさせられている人々たちへの暴力として現れています。これまでも多くの人権侵害や暴力にさらされてきましたが、以前よりその危険性を一層強く感じます。せめて給食の時だけは、ホッと一息つける、安心して交流できる時間と場所を作りたいと願い活動しています。

オンライン チャリティコンサート 実施報告

総再生回数7,000回以上、
寄付金額は215,000円に！



松井花枝



HanaWuta



香〜kaoru〜



La Fontaine



池田麻利亜



前田勝則

JELAは新しい取り組みとして、昨年末から今年1月にかけてYouTubeを使ったオンライン・チャリティコンサートを実施しました。計6組のアーティストが参加してくださり、素晴らしい演奏を披露してくださいました。3月18日現在の動画再生回数は合計7,359回となっており、215,000円のご寄付をいただいております。また、株式会社大塚商会と株式会社三牧建設工業（熊本）には協賛企業としてご支援いただきました。コンサートをご視聴くださった皆様、ご寄付くださった個人・団体の皆様へ心より御礼申し上げます。

今回は、チャリティコンサートに参加してくださった6組のアーティストに、メッセージとこの曲だけはぜひ視聴して欲しいという「推し」の聞きどころについて原稿を寄せていただきました。すでに動画をご覧になってくださった方、これから視聴してくださる方は、ぜひ参考にしてお楽しみください。

参加アーティストからの メッセージと聞きどころ

松井花枝（ピアノ）

この度は、オンライン演奏会を通して皆様と繋がれますことを本当に嬉しく思っております。演奏曲は5曲ありまして、全て私の好きな曲です。日々の気分にて聞きたい曲の選曲はきつと変わってきますが、今の季節にゆっくりと穏やかに心地の良い時間を過ごして頂きたい、おすすめします曲は3曲目のドビュッシー作曲「月の光」（17分30秒から）。お家のお気に入り場所にて、好きなお飲みものと一緒に聞いてくださ

い。また生の音をお届けするコンサートができます日が早く訪れますように。

HanaWuta（ヴォーカル&ギター）Izmi

このオンラインライブのために選び、練りに練った曲たちですので、すべておすすめです！ アドベントということで、きよしこの夜を演奏しました。アコースティックギターの深い響きと素朴な音色が、静かなクリスマスの情景を浮かび上がらせるようなアレンジになっています。オンラインライブはHanaWutaにとっても初めての試みでしたが、とても良い経験が出来ました。

香〜kaoru〜（ピアノ・ヴァイオリン・トランペット）中村春菜

今回のプログラムのすべての曲は、私たちがよく演奏をしているものばかりでした。その中でもとくに40分辺りから始まる『生命の奇跡』という曲はとても大切にしている曲で、関西に住む者たちとして、2021年1月17日の阪神淡路大震災から26年の日にも改めてオンラインでお届けさせて頂いた曲です。オンラインという形であっても、こうしてクリスマスの時期に皆様に音楽をお聞きいただけたことが私たちにとってとても幸せなことでした。

La Fontaine（2台ピアノ）角本茜

中田喜直作曲『日本の四季』の「冬がきて雪が降りはじめ、氷の世界に、やがて春の日差しが」（5曲目、34分15秒から）がまさに今の季節の曲です。今回、離れた場所でのリモート演奏は初の試みでしたが、動画が出来上がった時には感動しまし

た。今出来る奉仕をさせていただけたこと、各地の方に演奏を聴いていただいたこと、とても喜ばしく思います。同時に各演奏者の皆さま、JELAの皆さまの尊いお働きに私達も励まされました。この機会を用いてくださったJELAの皆様、導いてくださった神様に感謝します。

池田麻利亜（ピアノ）

私の演奏が少しでも支援の手助けになればと思います。今回讃美歌とクラシックの曲を数曲演奏させて頂きました。どれもオススめで讃美歌も素敵なアレンジですが、やはりクラシックを演奏する身としては3・4・5曲目のクラシックは是非覚えていただけたら嬉しいです。まだ厳しい状況が続いておりますが、1日も早い収束をお祈りしつつ、いつか画面越しではなく生で演奏をお届けできるように日々精進していきたいと思っています。

前田勝則（ピアノ）

それぞれ曲は何回も（何十回も）テイクを重ねてなんとか撮り終えました。名曲揃いですのでぜひご視聴いただけると嬉しいです。おすすめは、ドビュッシーの『舞曲』（9分27秒から）です。ところで今回、初めて誰もいないところでカメラに向かって喋るということをしました。聞く人に伝わりやすいようにと台本をきっちり作ったものの、原稿を追っている視線の動きが丸わかりでした。演奏と同じようにもっと試行錯誤と練習と経験が必要だと痛感しました。この経験をこれから活かしたいと思っています。

野宿者への食糧提供活動を支援

JELAは緊急災害支援として、都内の路上生活者を支援している「ちかちゅう給食活動」へ、日持ちのするあんぱんとカイロを贈りました。代表の久保彩奈さんより感謝のメッセージが届きましたのでご紹介いたします。

野宿を余儀なくされる方に「今日の糧」を 久保 彩奈（ちかちゅう給食活動 代表）

この度は、ホッカイロとあんぱんのご寄付をくださりありがとうございました。渋谷で野宿を余儀なくされている方々の命をつ



（この写真は2020年以前に撮影したものです）

今回のコンサート動画は、引き続きJELAのYouTubeチャンネル
でご覧いただけます！

YouTube
で検索

JELA チャンネル

（右にあるQRコードからもアクセスできます）

今後も様々な動画を配信していく
予定ですので、チャンネル登録も
ぜひお願いします！



2020年もたくさんのご支援を ありがとうございました！



世界の子ども支援
366,904 円



難民支援
1,194,000 円



緊急災害支援
1,234,776 円



一般支援金・
協賛金
1,392,960 円

教会リトリート
「詩編との出会い」
182,558 円

2020 年度
寄付金合計
4,371,198 円

いつもJELA実施事業をおぼえ、尊いお祈りとご寄付を頂き誠にありがとうございます。
2020年度に皆様から頂きましたご寄付・賛助会費を謹んでご報告申し上げます。

2020年度、JELAは皆様からの「ご寄付に弊社からの支出を加え、以下の事業を支援・運営いたしました。

- ・コルカタ貧困地域の女児救済支援 (インド)
- ・ワークキャンプ運営 (カンボジア)
- ・チャリティコンサート運営 (オンライン)
- ・次世代リーダー育成のための
給付型奨学金支給
- ・難民シェルター運営 (日本・都内2か所)
- ・新型コロナウイルス対策支援
(カンボジア、インド、バングラデシュ)
- ・豪雨/水害被災者支援
(カンボジア、日本・九州)
- ・大規模爆発事故による被災者支援
(レバノン)
- ・教会リトリート「詩編との出会い」運営
(日本・4会場、米国シオン・ルーテル教会からの支援を受けて実施)

※2020年内に緊急災害支援のために頂きましたご寄付のうち、3,267円は来年度へ繰越となりますが、2021年以降実施する支援において大切に用いさせていただきます。

JELA事業内容をより充実させ、継続的な支援を可能にするために、2021年も皆様にお祈りとご寄付によるご支援をよろしくお願いいたします。

支援者一覧

(2020 年 10 月 1 日～2021 年 1 月 31 日)

(※順不同・敬称略)

青木孝士/秋吉亮/秋吉恵子/浅野ゆり/東貴也/渥美千鶴子/揚張沙織/阿部節子/阿部光成/天野めぐみ/安藤淑子/池田哲也/池田篤夫/石井亮/石田宏美/伊藤信子/井上渥子/井上新/井上秀樹・祐子/今井早苗/岩越優子/大岡よし江/大金修・よし子/太田立男/大瀧直人/大嶺愛持・裸覇武・十六夜/岡田由美/小川佳代子/方波見篤/方波見和雄・知子/方波見愛/勝部久子/亀川榮一/菊池一生城/北川勝弘/京谷信代/グレイ恵子/河野悦子/小暮修也/小坂敦子/小松由美/小丸吉展/小宮俊作/佐野孝之/サムエル・カン/篠崎智恵子/島宗正見/霜尾閑子/新角房子/深川育子/杉浦りえ/武井順太郎/竹渕三和子/立山久美子/田中優輝/田中美紗子/谷口和恵/田港洋子/千野要/辻裕子/寺澤陽子/遠人美智子/鳥飼勝隆・豊子/中井奈津子/長田ひろみ/中村みゆき/中山奈美子/中山純郎/仲吉智子/那須幸/西垣親子/西立野園子/野田マサ子/芳賀美江/濱脇晴輝/原田靖彦・裕子/春木イツ子/

兵藤真里子/平岡博・いづみ/平田翔/平林洋子/平山新/深澤理香/福地明子/藤原薫/古屋四朗/保坂和子/堀田裕子/前田光子/眞嶋命/松浦雪子/三島絵里/ミルヤム・ハルコ/南谷なほみ/宗方美代子/村上真希子/村上裕子/村木直樹/初山昭恵/森下真樹/森下千鶴子/森部信・榮子/森保宏/森若奈/森藤明子/八坂由貴子/山内恵美/山口敏子/山田克子/山田芙美子/山本了/若原奇美子/青山学院大学附属浦和ルーテル学院小学校・中高等学校/天山ルーテル学園小城ルーテルこども園/九州学院みどり幼稚園/玉名ルーテル幼稚園/ルーテル学院幼稚園/奈多愛育園/JELC市ヶ谷教会/JELC大岡山教会学校/JELC宇部教会/JELC大分教会/JELC蒲田教会女性の会/JELC下関教会シャローム会/JELC玉名教会/JELC保谷教会

以上、ご支援ありがとうございました。
匿名をご希望の場合は、ご送金の際にお知らせください。

編集後記

「公益法人」の法的な定義とは別に、「公益」という言葉について考えています。社会全般の利益、というのが辞書等による一般的な説明です。公益事業に従事する良い団体は世界に多くあって、JELAも今そうした公益認定法人の一員を目指しています。この岐路にあつて非常に重要なことがあります。それは、JELAはキリスト者の働き手ですから、「人がキリストの愛を知ることこそが公益」と胸を張れるということです。多種多様な価値基準の現代社会に

生きる私たちは、その社会の益が何であるかに懸命になるあまり、聖書が語る「真の公益」に鈍感になりがちです。「人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか」(マタイ16:26) 困窮し苦難の中にある人のために祈り、行動する私たちに、キリストを信じる者に与えられる永遠の命を得られないならばその人にとって何の益となるのか、と聖書は迫ります。霊肉双方の救済事業に携わる自己認識をJELAが持つときに、神が喜んでくださるように思うのです。(渡辺薫)



国連で合意された17のグローバル世界共通の目標を「SDGs(Sustainable Development Goals:エスディー・ジー・ズ)」といいます。JELAはSDGsに賛同し、よりよい国際社会の実現に貢献しています。

JELAの活動にご支援を！
各種献金のご送金は下記をご利用ください。



ホームページからクレジットカードでご寄付いただけます！

JELA
Japan Evangelical Lutheran Association

一般社団法人 日本福音ルーテル社団
〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26
Tel.03-3447-1521 Fax.03-3447-1523
Email: jela@jela.or.jp
HP:https://www.jela.or.jp/
郵便振替口座番号:00140-0-669206
加入者名:一般社団法人日本福音ルーテル社団